



新しい常識を、自分たちで創り続ける

学校一斉臨時休業後の通常授業開始から1年が経ったことを機に、高学年の子どもたちと学校生活の様子を振り返り、全校の誰もが安心して安全な生活を送るためにどうするとよいかを、あらためて考えました。子どもたちは、変異株の出現により飛沫感染リスクが高まっていることを理解しています。教室での過ごし方や、業間での遊び方について、これまで以上に「マスク・手洗い・人との距離」等の感染予防対策に気を配ることが重要であることを確認し合いました。

一方で、マスクを外すことで感染リスクが高まるとわかってはいるものの、夏本番を迎えるこれからは、熱中症予防のためにマスクを外さなければならない場合もでてきます。特に、登下校時は長時間太陽光にさらされ、集団での行動を余儀なくされることから、熱中症と飛沫感染の危険が高まります。そこで、夏至を迎えた6月21日(月)から、秋分の日に近い9月24日(金)までの期間中の全日、日傘を差しての集団登下校を実施することにしました。目的は次の2点です。

- ・集団登下校の際の子どもどうしの距離を、傘によって物理的に確保し、暑い時期にマスクをはずす場合の飛沫感染リスクを下げる。
- ・集団登下校の際の、長時間に渡る一方向からの強い日差しを遮り、熱中症を予防する。

児童用日傘は、資源回収収益金により購入させていただきました。資源回収にご協力いただきました地域の皆様に感謝申し上げます。

学習活動においては、山口市から1人1台貸与されたタブレット端末(iPad)を活用する機会が増えてきました。国語科や道徳は、視点を明確にして分類、整理した自分の考えや思いをデジタルカードにまとめ、瞬時にクラスの全員と意見交換をします。算数科では、問題を解いていった足跡が残る自分のノートを写真に撮って交流し、自分とは違う考え方に触れます。理科や生活科では、撮影した写真に文字を書き込み、植物の成長観察記録を残します。英語科では、英文でまとめた自己紹介の内容をスライドショーにして、それを示しながらコミュニケーションをします。体育科では、自分の演技の様子をビデオに撮り、よりよい演技にするためのヒントをつかみます。ドリル的な学習をサポートするアプリを、個々の必要に応じて活用することができます。

教職員がこれまで手間がかかると感じてきたことが簡単にできるようになり、子どもが試行や思考をするための時間を確保できるようになりました。私たちがもっと大胆に、これまでの授業づくりの方法を考え直すことを続けていけば、また違う世界が開けそうです。私たち梅原小学校職員は、子どもたちに負けないように発想を柔軟にして、ICTを活用した、新しく、楽しい学習活動の在り方を追い求めて参ります。

※タブレット画面に文字を書き込む機会が増えてきました。「タッチペン」があると学習効率が上がりますので、本づつ用意のうえ、常備いただくことにご協力ください。